

有害化学物質、高齢者自立支援策、
道路課題

国分寺・生活者ネットワーク 梁川 律子

有害化学物質の影響によるリスクを少なくすることは次世代へつなぐ私たちの責任である。問)「疑わしきは使用せず」に立ち、現在市で使用している石鹼について成分等の調査を。

答) 研究機関の情報を把握し、リスク回避の視点に立った対応を各課と連携しながら進める。

市では高齢者人口がおよそ21,000人。予防重視型施策を進めるためには高齢者自身も健康を維持する意識と、市が積極的な施策や事業を行わなければ野放し状態となる。自立を支援する事業も介護保険制度との組み合わせを行うことでさらなる事業が展開できると考える。

問) 一人暮らしの高齢者の孤独感の軽減が目的となっている支え合いネットワーク事業を介護保険制度から外された(要支援1、2) 散歩や外出を市の独自事業として行うことの検討を。

答) その視点を大事にして検討していく。

歩行者・自転車優先道路は従来型の車優先道路行政から大きな転換が必要となる。生活道路は地域特性を把握した上で企画することが必要。地域の生活道路を点ではなくゾーンで検討を。

問) 道路網整備計画にはその理念が描かれているが現実は行われていない。

答) 実施計画ができていない。市内での生活道路をコミュニティ道路とすることは難しい。

第二のプレイステーション・
公共施設の有効利用

国分寺・生活者ネットワーク 多良京 京子

問) 子どもたちが自然とともにのびのびと遊ぶことの出来る場の提供が必要。中央地区、西地区にもプレイステーションの設置を。

教育長) 財政面で難しいが、精神は理解しており、検討していきたい課題である。

問) 今年度予算に計上されている野外遊び事業の拡充(四ヶ所増)を早急に執行せよ。

子ども政策担当部長) 公園近隣の理解がハードルとなり、進んでいない。

問) 公共施設(スポーツ施設・公民館・地域センター・ホール・福祉施設等)は市民が有効利用できるよう目的別・機能別に紹介して案内を。(例、体操で使うなら…、会議で使うなら…、駐車場があるのは…、和室があるのは…等)

政策部長) 紙媒体の案内はすぐに作成する。ホームページにも載せられるよう進めたい。

問) 各施設の申し込み方法を統一し、市のHPリニューアルの際に、空き状況の検索、予約、抽選、申し込みまで出来るシステムの導入を。

政策部長) 総合的に検討する。

問) 各施設での個別の初動体制や誘導、人員配置など防災・防犯マニュアルの現状と必要性は?

各担当部長) 子どもの施設(学校・保育園・児童館等)以外についてはマニュアルは存在しない。作る必要性は認識しており、早急に対応する。

常に「子どもの視点」から
課題を捉えよ!

国分寺・生活者ネットワーク 片畑 智子

教育と福祉の連携による「不登校支援」が必要問) 不登校を個人の問題にせず、家庭や学級・学校、地域など、取り巻く環境を見直し、生きにくさを感じさせる阻害要因を分析し、それを改善していくことが解決につながる。このような新たな視点を持って教育と福祉が連携し、複合的な支援体制を構築し、継続的な支援を。教育長) 同様に考えている。

子どもの自己防衛力を育むための取り組み問) “ステレオタイプの不審者像からの暴力回避”という非常に画一的な防犯教育が、逆に子どもの危険回避の力を鈍らせていないか。現代社会を生きる子どもたちが、遭遇する可能性のある暴力から自分を守るためにも、子どもの視点からの取り組み(CAP)こそが重要である。総務部長) 検討する。

観光マップ&ロケーションボックスについて問) 観光やまちおこしの観点からも、国分寺を積極的にアピールするツールとして、活用せよ。市民生活部長) 提案型の協働事業も視野に入れて充実を図りたい。

就労困難者の就労支援について問) 早期に目に見える形で実行し、実現せよ!市民生活部長) 東京経済大学との地域連携協議会でのH19年度の事業として取り組んでいく。

市役所建設は
用地買収費がいらぬ現在地で

市民サイド 釜我 健二

問) 庁舎建設は用地買収費がいらぬ現在地とすべきだ。仮に移転する場合は、恋ヶ窪駅周辺のまちづくり計画の策定と合意が必要だ。

政策部長) 12月に場所を示すが、その際、方向性手順も示したい。まちづくり条例に沿った具体的検討は、次年度の予算での対応となる。

問) 庁舎の扱いに連動して、恋ヶ窪公民館図書館の改築を含めた検討をすべきだ。

政策部長) 合せて考える大きなきっかけとなる。

問) 恋ヶ窪駅横の都道は、朝の通勤通学時は大混雑で危険だ。踏切り拡幅を都に要望すべき。

建設部長) 危険さは認識している。大変危険なので、道路拡副を含め都に要望してゆきたい。

～合成洗剤は使用しない方針は守るべき～

問) 市内では学校給食などに全ての合成洗剤は不使用の方針なのに、なぜ今年度購入したのか。総務部長) 合成洗剤は不使用の方針だ。この点が不徹底で申し訳ない。今後、徹底する。

問) 教員に中学校給食を食べよう「指導」するとのことだが、健康上食べられない教員もいるのだから、「指導」はゆきすぎだ。

教育長) 事情のある者まで食べるとは考えない。

問) 小学校給食費の会計方式を至急改善を。

教育部長) 公費への移行を解決すべきとの認識はある。当面監査事務局の活用を考えたい。

緑・ごみ等、環境問題を中心に質問

民主市民クラブ 三葛 敦志

歩きタバコ・ごみ有料化・緑被率の向上と、環境問題を中心にしつつ、選挙公報の音声化などこれまでこだわってきたテーマの現状を確認しました。特に、緑被率は今後も注視します。

Q. 選挙公報の視覚障がい者への対応について、音声化への取り組みの状況は?

→参院選で、国の政策として音声テープ化が全国で実現した。市としても今後検討する。

Q. 参院選の開票時間の短縮について

→3年前より選挙区・比例区とも短縮した。

Q. 歩きタバコ禁止のステッカーは多摩地域で一番小さい。大きいサイズに貼り替えを。

→年度内にも大きいサイズを作る。

Q. 本多以外の図書館の時間延長の実現を。

→本多が平日夜8時までとなり評判もよい。予算面の制約もあるが、検討する。

Q. ごみを3年間で12%減量する方向だが、実現のためには「有料化」を導入すべき。

→有料化の方向性だが、もう少し様子見る。

Q. 緑被率向上に向けた取り組み～35%まで向上させるための具体的施策の積み重ねを。

→緑の必要性は認識。基本計画を見直す。

Q. 市内で起きた現職警官による射殺事件について、警察との情報連携は十分だったか?

→不十分だった。情報連携を申し入れたい。

「本当に必要」な支援を!
環境保全に力を!

市民サイド 亀倉 順子

問) 障がい等級に応じた生活保護受給者が等級変化が充分理解できないなどで、従前の支給を受けた場合、遡及し返還が求められている。フォローがあれば発生しえない事だ。その責任はどこにあり、なぜ発生し続けているのか?

福祉部長) 事業の連携が不十分。責任は職員に。

問) 当事者にとって、本当に必要な支援は何かを判断できるなど、専門職の配置を求める。

福祉部長) 個人情報の取り扱い等、経験不足を痛感。来年の人事異動時に専門職配置をする。

問) 医療ケアが必要な当事者が通所可能になる様障害者センターの立地を生かし法人と協議を。

福祉部長) 人員の配置等、法人と協議をする。

問) 環境問題は今や人類の脅威になっている。動植物の変化はその指標のひとつ。計画に基づき、市内動植物実態調査を市民参加で実施を。

整備部長) 関係者と協議し、来年度実施を検討。

問) 75才以上の災害弱者の調査が実施されたが、その結果を自治会等に提供する時の手続きは?

総務部長) 誓約書等を頂くことを検討中。

問) 自己情報を誰に託すか、自分で選択できるシステムの検討を。個人情報の共有化問題は十分に議論をすべき。

政策部長) 共有化問題は審議会に意見を求めたい。コントロール権は検討の課題とする。

会派構成の変更について

9月11日に伊藤太郎議員が会派から離脱し、「無会派(新和会)」となり、「自由民主党市議団」の所属議員は4名となりました。

伊藤議員が陳謝

8月30日の一般質問において不適切な発言があったとして、伊藤太郎議員から9月4日の本会議で陳謝がなされました。

陳謝

私の行った一般質問において、不適切な発言がありました。元議長には不快な思いをおかけし、さらに他の議員の皆様にも御迷惑を

おかけすることになってしまいました。このことについて深く反省をし、本会議の場をおかりしまして、心より陳謝申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。